

## 「萬物生成の尊い秩序」

(昭和四十年 七月発行)

萬物の生成には尊い秩序がある。宇宙は何一つとして軌道を外づれることなく秩序整然として生活・活動している。その有様は莊嚴きわまりない。あらゆるものが秩序正しく出来るのは神の嚴格さが萬物に現われている実証である。嚴格さというのは換言すれば神の御意思に従うことである。ウリの蔓にはナスビはならぬ、と昔からいい伝えられている。ナスビはナスビ、ウリはウリ、牛は牛、馬は馬、犬は犬と秩序正しく整然と、その分け與えられている性質に基づき、それを明らかにして、宇宙の大氣、神の御意思通りに従って生成を続けている。

動物の世界を見て、真理的にも、はたまた人間知識的にも、このように総てのものが嚴格に神の御意思に従っているということを感じるならば、実にこの世は神の世であるという結論に達せざるを得ない。

果樹にしても、蔬菜（ソサイ）にしても、穀類にしても、春実るもの、夏実るもの、秋実るもの、冬実るものと様々であるが、ちゃんと天命を守り、天の賦與を受けて、命ぜられた時期に正しく実っているのである。

総てのものは時期を守り、月・日・時間の約束を実行して使命を果している。他の花の美しさを見て、その花のようになりたいと思う花は一つもあるまい。自然の秩序は破ることは出来ないのである。